

■ 腰椎と大腿骨近位部の骨密度を測定する 最新鋭のDEXA装置が2023年1月末に設置予定

- 骨強度は骨密度と骨質で規定されます
- 骨粗鬆症ガイドラインでは骨粗鬆症の診断は腰椎と大腿骨近位部の骨密度を測定することが望ましいとされています
- 65歳以上の女性、70歳以上の男性、脆弱性骨折を有する方は骨折リスクや重症度の判定のために骨密度測定が有用です
- 日本では70歳前半で25%、80歳代で43%の方が脊椎椎体骨折を有し、その半数以上が複数の椎体骨折を有します
- 椎体骨折による痛みは生活活動度ADLと生活の質QoLの低下に直接結びつきます

引用；2015年版骨粗鬆症の予防と治療のガイドライン



■ 葛飾区骨粗しょう症予防検診の実施

2023年1月末に腰椎と大腿骨近位部骨密度を測定する骨密度測定装置(DEXA)が導入されることに伴い、同年2月から葛飾区骨粗しょう症予防検診の検査を実施可能です。